

平成28年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
農産部門

機械の改良による省力化・コスト削減と複数品目による複合経営の展開

○氏名又は名称 有限会社 中山農産（代表 中山 智章）

○所在地 富山県高岡市

○出品財 経営（水稲・ハトムギ他）

○受賞理由

・地域の概要

高岡市は、富山県の北西部に位置し、人口は約17万人、面積は209km²である。農地のほとんどが水田で水稲を中心に大豆や大麦、ほうれん草などの野菜、チューリップ球根・切り花などの花き栽培も盛んな地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

中山氏は、平成15年に有限会社中山農産を設立し「夢と工夫 地域とともに」をキャッチコピーに「地域農業の担い手として農業振興を図る」を経営理念として、地域の農地の受け手として地域農業に大きく貢献している。平成26年産の作付面積は水稲30ha、ハトムギ25ha、野菜5.2haに加え、7.4haを作業受託している。

・受賞者の特色

（1）中古機械の活用や既存機械の改良によるコスト削減

エンジニアでの経験を活かし、中古機械の活用や既存機械を改良することにより、機械・施設の導入コスト及び生産コストを削減している。例えば人参においては施肥、は種、畝立て、除草剤散布を同時作業で行う事を可能にするなど既存の機械を有効活用し改良を加え、作業効率の改善に役立てている。

（2）高品質なハトムギ生産

面積拡大の為には作業の省力化が必要であると考え、中耕が不要な栽培体系を先進的に導入するとともに、は種と同時に排水溝を掘れるようには種機を改良し、発芽率の低下リスクを低減させた。また、県外ではほとんど見られない色彩選別機による選別を行い、高品質なハトムギ生産に努めている。

（3）複合経営による収益の拡大

従業員の通年雇用を実現するため、水稲以外の複数品目を取り入れた複合経営をいち早く開始した。里芋では年明けのニーズが高かったことから、水稲育苗施設を活用して、3月までの長期出荷を行い有利販売している。他にも人参、枝豆、キャベツなどの生産を行い収益の拡大を図っている。

・普及性と今後の発展方向

水稲では、ほ場の大区画化によるスケールメリットを活かした経営、環境に配慮した栽培を行い、所得の向上に努める。野菜においては生産拡大、品目導入により経営の複合化をさらに進め、加工品の製造販売や自社生産の農産物を利用したレストランの開設等に積極的に取り組んでいく。